

京都〈ゆうゆうの里〉入居者インタビュー

〜確かな安心があるから

元気に好きな事を続けられます〜

久場 實 様 (82歳)・晴子 様 (75歳)



今回は入居1年目の久場様ご夫妻にお話を伺いました。

元気に過ごせる施設に

入居したかった

夫婦二人の将来の生活を考え、施設への入居を検討し始めました。私達が大事にしていたのは、これまでどおり元気で活発に過ごせるかどうかでした。色々な施設を見学したけれど、自分達が理想としているようなところはなかなかありませんでした。最後に京都〈ゆうゆうの里〉を見学して、広々とした敷地の中にプールやジムがあり、医療や介護の確かな安心がありながら入居者が生き生きと元気に暮らせるように考えられているんだと実感する事ができました。サークル活動も盛んですし、入居するならここだと思ひ、

二人で入居を決めました。

僕の元気の秘訣

(ご主人) 二十歳の頃、何かしてみようと思ってその当時ブームだったダンスを始めました。競技ではない社交ダンスなので、みんなでわいわいできて、練習するのも楽しくずっと続けています。退職してからは、週に4回違うグループでダンスを教えています。習っているのと教えているのでは自分の意識が全然違って、頭もはつきりしていきなとできないんです。それが今のバイタリティになっていきますね。とにかくこの大好きなダンスを続けたい。体験入居をした時に、里から教室までシャトルバスと電車を使って行けるとわかって、これからもまだまだ続けられるんだと嬉しくなり

ましたね。こちらのフォークダンスサークルも参加させていただこうと思っています。



華麗なダンスを披露

やりたい事がいっぱい

(奥様) 私は仕事を退職してからは、何か人の為になる事がしたいと思っていました。市の広報で見つけた福祉施設に行って、歌にあわせて体操をする「生き生き歌体操」というボランティア活動を始めました。また、お顔や手のマッサージをさせていただく「ビューティケア」というボランティアも

始めました。利用者さんが喜んでくれるのが嬉しくて生きがいになっています。その他にも、大阪府高齢者大学の上方演芸科に入学しました。桂文枝さんの2番弟子の桂枝三郎さんに教えてもらって、『淀乃晴幸(よどの はるこう)』という芸名で月に1回、落語の講演もしています。人が笑ってくれたり喜んだりしてくれるのが嬉しくて、これからも続けていきたいです。里でも、ジム・プール・サークル等、まだまだやりたい事はいっぱいあります。



落語会名人寄席にて

いつまでもやりたい事に、積極的に取り組む久場様ご夫妻。これからも、久場様らしく人生を謳歌してください。